

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2022(令和4)年4月22日(金)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への **《懸け橋》**

No. 47

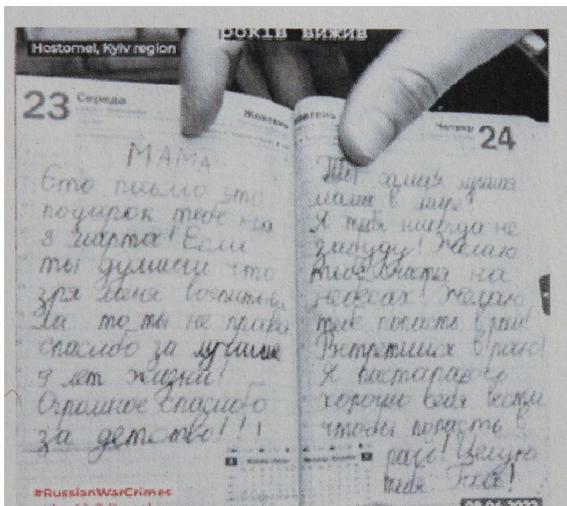
発行:

人権啓発指導員

【大楠 茂美】

～誰一人、取り残さない!!…『確かな人権』『豊かな環境』『平和の希求』～

エスディーズ **『SDGs』**に込められた **願い**を、今こそ みんなで **次世代につなぐ!**



ウクライナ議会の人権オンブズマン→デニソワさんが、亡き母に書いた少年の手紙の画像を投稿(=フェイスブックから)

最高の9年間をありがとう! 僕の子ども時代を本当にありがとう!
ママは、世界一のお母さんだよ!
永遠に忘れない!
天国で幸せになってね!
ママが天国に行けますように…!



ウクライナ議会の人権オンブズマン→リュドミラ・デニソワ氏は8日、自身のフェイスブックに、ロシア軍の発砲で母を亡くした9歳の少年が、母親に送ったとされる手紙の画像を投稿したところ、その画像が今、

SNSで拡散しているそうです。そこには、母親への感謝の言葉や冥福を祈る内容が記されていました。…耐え難い苦しみや悲しみ、辛さを子どもたちにも背負わせている現実を、どう受け止めたらいいのでしょうか…!?

■ `特別軍事作戦(→ウクライナ侵攻【→侵略戦争】)`について、…
「何の疑いもない。`作戦`の目的は絶対的に明確で**崇高なものだ**」
として、「**自国の安全保障のために(侵攻を)始めた**。明らかに、他に方法がなかった。**彼らが攻撃の時を選んだだけだ**」との持論を展開。
(→4/12【訪問先の極東アムール州の宇宙基地にて】:大統領の談話)

○ `平和`を**希求**するには、`戦争`しかなかった…? 耐え難い悲しみをもたらし続ける…大義名分の**侵攻**。この目的が、`崇高`なもの…???

- 「人道目的」なのに、人々を苦しめる軍事作戦(→侵略戦争)って…?
- なぜ、突然、一つの主権国家に軍事侵攻(侵略)し、軍事関連施設だけでなく、病院や民間施設等にまでミサイル等を打ち込めるのだろう…?
- どうして、多くの人が傷つき、かけがえのない生命が、奪われなければならないのだろう…? 理不尽な出来事が、まかり通っているのは…?
- 何が本当なのか? 人間の本性が今、正に問われているのでは…?
- 過去の世界大戦や紛争等から、人間は、何を学んできたのだろう…?



- どれほど多くの涙が流されなければ、己の愚かさ(おろ)に気づかないのか? 人間は…。
- どうして、こうした争いが繰り返されるのだろう…??

白旗を 挙げよと迫る 侵略者 何が正義か 何の正義か…

突然のウクライナ侵攻から2か月余り、未だ収束が見通せない中で、理不尽にも奪われたかけがえのない生命の声は、『戦争は最大の人権侵害』であることを、生命を賭して(→かけて)、訴えかけているのではないのでしょうか。 きっと、…!!

このまま、人間の勝手な都合で、何の責任もない人々の幸せを奪い去ってしまうおかしさが、まかり通り続ければ、『持続可能な社会の実現』

は到底叶いません。だからこそ、「SDGs」の目標の最後に『環境』と併せ、この二つが挙げられたのでは…。(→『懸け橋45号』にも関連内容を記載)



つい先日、甥っ子が40余年の生涯を閉じました。日々、当然のように生きていることの意味を、改めて考えずにはいられない、尊くかけがえのない時間を過ごしました。 … 決して、他人ごとではない生と死!

今一度、自分のこととして「生命」「平和」…、一人一人の「人権」について、身近な人たちと話し合ってみませんか!!



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2022(令和4)年 6月 3日(金)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《懸け橋》

No. 48

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



先日、救急搬送した父親(満96歳)が自宅に戻りました。…ホッとしたものの、高齢のため、ほぼ介助が必要で、お茶もとろみをつけるなど、自宅での生活に不安を感じながらの退院となりました。

自宅での生活を前に、薬局へ行くと、これまで気付かなかったとろみをつける粉末、介護用おむつやパンツ、流動食用の栄養食品…など、様々な介護用品の多さにびっくり…!!

自分たちには、まだ必要ないと勝手に思い込んで、どこかで他人ごとだったと痛感させられました。介護用品だけでなく、医療と福祉の現実的な連携や気配りにも、ただただ感謝するばかりでした。例えば、…

○自宅での生活に向けた入院病棟→包括ケア病棟の連携(医療と福祉)
○退院後の訪問看護、地域包括支援センターや担当のケアマネさん、介護用品業者さん等、不安が募る私たちに心を寄せて頂いたこと…。

入院前日まで、いつものように自分で動き、食事をして、身の回りのことが出来ていたのに、突然の入院!! 一か月後の退院時には、言葉も出せず、身の回りのほとんどが介助状態に…。父親自身(被介助者)が一番辛いと分かりながらも、大変さ【自分のおかれた立場】、ばかりが先に立っていた、この一週間でした。…『父親の視点』よりも、自分(私)の(自分にとっての)大変さ、ばかりが膨らんでいました。…

さらに、高齢による父の心身の衰えを、認知症等により理解することが難しい母親(92歳)の言動…。病気がさせていると分かっているのに、共感しながら母親に寄り添うことすら難しく…なっていた自分(私)。

そんな時、看護師として、介護の現場に携わっていた姉から、「♪手紙～親愛なる子どもたちへ～」という資料をもらって、思わず…溢れる涙を押さえることができませんでした。

皆さんは、この歌詞に込められた想い、どう感じられるでしょうか?

♪手紙♪ ～親愛なる子どもたちへ～

原作詞：不詳/日本語訳詞：角 智織/日本語補足詞・作曲：樋口了一/ストリングス・アレンジ：本田優一郎

年老いた私が ある日 今までの 私と違っていても
どうかそのままの 私のことを理解して欲しい
私が服の上に食べ物をこぼしても 靴ひもを結び忘れても
あなたに いろんなことを教えたように… 見守って 欲しい

あなたと話す時 同じ話を 何度も何度も 繰り返しても
その結末を どうか さえぎらずに うなずいて欲しい
あなたにせがまれて 繰り返し読んだ絵本のあたたかな結末は
いつも同じでも 私の心を 平和にしてくれた

悲しいことではないんだ 消え去ってゆくように見える 私の心へと
励ましの まなざしを 向けて欲しい
楽しいひとときに 私が思わず 下着を濡らしてしまったり
お風呂に入るのを いやがる時には 思い出して欲しい
あなたを追い回し 何度も着替えさせたり 様々な理由を付けて
いやがるあなたと お風呂に入った 懐かしい日のことを

悲しいことではないんだ 旅立ちの前の準備をしている私に
祝福の祈りを捧げて欲しい
いずれ 歯も弱り 飲み込むことさえ できなくなるかもしれない
足も萎えて 立ち上がることすら できなくなったら
あなたが か弱い足で立ち上がろうと 私に助けを求めたように
よろめく私に どうか あなたの手を 握らせて欲しい
私の姿を見て悲しんだり 自分が無力だと思わないで欲しい
あなたを 抱きしめる力がないのを知るのは つらいことだけど
私を理解して 支えてくれる心だけを 持っていて欲しい
きっと それだけで それだけで 私には 勇気が湧いてくるのです
あなたの人生の始まりに 私が しっかりと 付き添ったように
私の人生の終わりに 少しでも 付き添って欲しい
あなたが 生まれてくれたことで 私が受けた 多くの喜びと
あなたに対する 変わらぬ愛をもって 笑顔で 応えたい
私の 子どもたちへ 愛する 子どもたちへ…

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2022(令和4)年 6月17日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 49

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



(No.48号の続き…)

退院後、父の介護生活(食事やトイレ、痰の除去など)に、少しずつ慣れてきた8日目のこと。いつもと違う父の様子に不安が走って、再び119番に電話を…。

一週間前まで、入院していた病院に再入院し、集中治療室へ…。あっという間に全介助状態になり、意識はあるものの言葉を出すのが難しくなった父。今度は、血圧の低下や自力呼吸も厳しくなり、血圧を上げる薬の投与や密着型酸素マスクを付け、おしっこも出にくくなるなど、坂道を転げるように悪くなっていきました。

数日後には、血圧が60前後にまで下がり、覚悟したものの、何度となく訪れる危機を乗り越え、酸素マスクが鼻腔に通す管に代わり、投薬なしで血圧110前後まで改善。炎症(?)等で、38℃前後続いていた体温も平熱に…!!



毎日、父の「血圧は?」「体温は?」「酸素の取り込みは?」と一緒に、「おしっこは出ていますか?」など、何度も聞き返していました…

■腎臓がきちんと機能していることは、血圧や酸素の取り込み《呼吸》、体温等が生きていくことに繋がり、互いに関連し合っていること。

■体の中の老廃物がきちんと排泄されることは、生命維持のバランス(新陳代謝の働き)を保っていく上で、重要な役割を果たしていること。

「おしっこ」が出てくる…ってこと、こんなに愛おしく感じたことはありません!!

父は、高齢を生きる、自らの姿から、身体的な衰えだけじゃなく、体を「誰かにゆだねることへの想い」「人として生きる、生き抜く」ということを伝えてくれているように、思わずにはいられませんでした。そんな時、…

『生きる(谷川 俊太郎)』という詩になぞらえて、頭に浮かんだのが…

「生きている」ということ

大楠 茂美

生きているということ…



おしっこがちゃんと出ているということ
血圧が 100前後を維持できているということ
手を握ると 握り返してくれるということ
「おじいちゃん!」と 声かけすると
顔を向けてくれるということ
まばたきをしてくれるということ

「おばあちゃんが 来てるよ!」と 声かけすると
血圧が少し上がって 応えてくれるということ
まばたきして 応えてくれるということ

みんなが 声かけすると
思わず、涙で 目じりを濡らしながら 応えてくれるということ

生命維持装置の アラーム(警告音)は
限りなく精一杯 今「一瞬」を 確かに 生きているということ

生きているということ…

誰もが「旅立ち」に 向かいながらも
自らの生命が尽きる 「そのとき」まで
かけがえのない 『生命の根源』を…
生きているということ



私たち一人一人 誰もが かけがえのない生命なんだ…と
伝えてくれているということ

「かけがえのない」という言葉に込められた『生命の尊厳』について、
こんなにも考えさせられたことはありませんでした。…そうした体験から、
今、私にとって「大切」で、「避けることができない」自分ごととしての
人権課題と、しっかり向き合うことが、きっと、同和問題をはじめ、様々な
人権課題への理解(他人ごとでなく、自分ごととして捉える)や、確かな
人権尊重に根ざした自らの行動に、つながっていくのだと思っています。

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2022(令和4)年 8月 2日(火)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 50

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

■内閣府『人権擁護に関する世論調査』（2019【平成29年】10月）の「子どもに関し、現在、どんな人権問題が起きていると思うか？」という設問では、以下のような回答が…。決して、**他人ごとではありません!!**



0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

いじめを受けること 【66.9%】

虐待(ぎゃくたい)を受けること 【62.6%】

見て見ぬふりをすること 【52.6%】★

※ その他、「体罰を受ける」「子どもの意見を無視する」「性的な犯罪の対象となる」ことなどの問題が、挙げられていました…(複数回答)

「どの子ども 子どもは星、
(東井義雄さんの言葉より)

「いじめや虐待を受けること」の他に、「見て見ぬふりをすること」(3位)も、大きな人権課題なんだとしっかり考えている人たちが、たくさんいるんだね…!!



最近のいじめは、ネット等で知らない間に悩んでいることも…。「自分には関係ない」じゃ、すまされないね!!

学校の帰りがけ、友だちが仲間はずしされていたのを、見かけたよ。でも、何も言えなかった…



辛かったね!! 一人で悩まなくていいんだよ。先生や
おうちの人、大人の人に相談してみよう!! その一言が、
友だちや私、みんなの笑顔につながってくよ。きっと!!

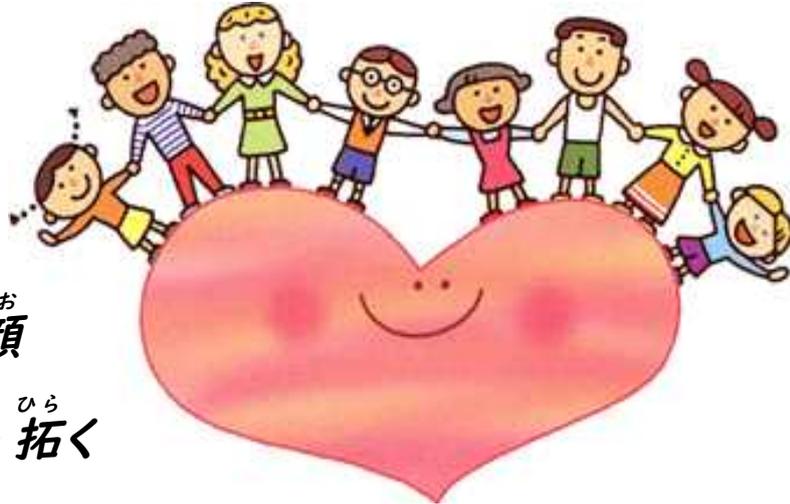


だれでも、みんな

かけがえのない ^{いのち} 大切な生命!

こ ^{ゆめ} 子らの夢

えがお ^は じける笑顔



あす ^{ひら} 未来… 拓く

ひとりのこ ^{いのち} 一人残らず… かがやく 生命

あす ^{ひら} 未来を拓いていく子どもたち…!! 子どもたちにとって、伸びやかに、健やかに…育っていくことができるように努めていくことが、決してはずせない大人の使命ではないでしょうか…

そうした視点で、子どもたちを取り巻く、様々な環境、を見渡して見てみると、…

- 世界の『平和』は…?
- 地球の『自然環境』は…?
- 『貧困』や『教育』などの問題は…?
- ネット社会の中で、分かりづらく 見えにくくなっている『いじめ』や、『ヤング・ケアラー』など、『子どもと人権』にかかる問題は…?



「**子どもの権利条約**※」は、子どもの『生きる権利』『育つ権利』『守られる権利』『参加する権利』等、子どもが一人の人間として尊重される主体として、子どもの基本的人権を国際的に保障した条約です。未来に繋ぐ上でも、今一度、その趣旨について、自分のこととして捉えることが大切に…!!
【1989(平成元)年、国連で採択。日本でも1994(平成6)年に批准】

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2022(令和4)年 9月 6日(火)

みんなの“人権”が尊重される

『まちづくり』への《懸け橋》

No. 51

発行:

人権啓発指導員

【大楠 茂美】

救急搬送されて入院。約一か月で家に戻れたものの、
わずか一週間後に、再入院することになった父(96歳)
との出来事を、父からの「一週間のおくりもの」として、
『懸け橋』No.48～49号に掲載させていただきました。…



その後、新型コロナ感染の急拡大により面会ができず、
着替えを持って、様子だけを聞きに、母親を連れて行くのですが、父の熱
が、なかなか下がりません。そんな日が続いて迎えた7月25日。いつも
のように「熱は…？」と尋ねると、「平熱に下がってますよ」という嬉しい



報告に安堵したのも、ほんの束の間でした。

その日の夜、病院からの電話が鳴って「心停止が、今…」
という知らせ。いつか連絡がくると思っていても、考えることを
避けていました。気は動転して、「すぐ行きます」と言ったものの、
母親にどう伝えたらいいのか、頭の中は「真っ白…」状態でした。

あれから、もうすぐ「四十九日」を迎えようとして
いる今、私は、『最後に「ありがとう」と言えたなら』
という本を、読み終えたところです。…

著者は、これまで4千人以上の方との「お別れ」を
お手伝いされてきた、納棺師の大森あきこさん。

この本を読もうと思ったきっかけは、お世話に
なったお寺の住職さんが話された「言葉」でした。

悲しむ間もなく、葬儀屋さんやお寺さん等への
連絡、打ち合わせが…。コロナ感染防止等を配慮したり、枕経はいつ頃
お願いすればいいかなど、「滞りなく…」ばかりが先に立っていた私に、
「一度っきりのお通夜、お葬式です。お父さんの二度とない「旅立ち」を、
どのように迎えさせてあげたいと思っていますか？」という一言が…。



それを聴き、「はっ」とさせられ、できることなら「旅立ち」の前、父には、
ゆっくりお湯につからせてあげさせたいという思いが募っていました。

納棺師という言葉は、『おくりびと』という映画で知ってはいましたが、実際にお会いするのは初めてでした…

おかげ様で、「湯灌（最後のお風呂）」を通して、父に「これまでありがとう…」と心の中で話しかけながら、自分なりに気持ちの整理をしていたのか、住職さんがおっしゃっていた、一生に一度っきりの「かけがえのない時間」を過ごすことができました…。



大森さんは、こうした「時間」を「大切な人との思い出を振り返る皆さんにとって、特別な時間」になれば…。「ご遺族の方々に、安心してお別れをしてもらう。大切な方との「関係」を、ゆっくり見つめるきっかけになることを願っています。」と書かれていました。また、次のようなことも、振り返っておられました…

気持ちよかったですか？
本当に、お疲れさま…!!

「生」と「旅立ち」との間の「時間」に関わる、その原点には、「自らが、自分の大切な人との「お別れ」が上手にできなかったことを後悔して、ご遺族のお手伝いをしながら、心のどこかで、「お別れ」のやり直しをしているのかもしれないと感じることがあります」と…心に残りました。



父の「旅立ち」に向き合う中で、「生」と「旅立ち」について、自分自身のこととして、真剣に考える機会を父がくれた？のだと思います…誰にでも間違いなく訪れる「旅立ち」。だからこそ、一日一日 安心して、精いっぱい…生きていく。そして、生まれてきたこと、育ててもらえたこと、出会ったこと、笑ったことなど、そのすべてに「ありがとう！」この生命に「ありがとう！」と言えるためにも、みんなの『人権』が大切にされる（→『人権の共存』）という基盤があってこそ…!! ということを、改めて考えさせられました。



センターの花壇や図書館中庭の「向日葵」は、笑顔のような花を咲かせました。そして、もうすぐ新しい種が…。生命が次々に繋がっていくように、かけがえのない生命が大切にされる社会を、みんなで、築いていきましょう!!



センターで育ったひまわりは、茎と葉の間からも、「笑顔」のような花を咲かせました。